

令和2年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から	
授業づくり	◎未来や社会につながる授業づくり ○「こころざしを実現する力」を育む場面の設定 ○「こころざし」を育む主体的で対話的で深い学びの実現 ○ESDの視点から教科の本質を押さえた教材研究	授業の内容がよく分かるか答える生徒 85%	B	82%	○本年度は、コロナの影響により休業期間があったり、話し合い活動が制限されたりと、例年とは異なる学習環境となった。しかし、授業時間の確実な確保や、新しく導入されたICT機器の活用などにより、生徒はスムーズに当該学年の学習に入り、無理なく学習を進めている。このような状況に合わせて、教師自身も研修を積み、様々な工夫を凝らした授業を実践していることも、生徒の学びを支えていると言える。意欲的に学習に取り組む生徒も多く、自主学習を進めたり、家庭学習を充実させたりする生徒が見られる。一方で、学習習慣が身に付いておらず、授業内容が十分に理解できていない生徒も見られる。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。・学習習慣を身に付けたり、学習内容の理解を深めたりするために、個への支援や少人数での指導などを推進する。・各教科の改善点について共有し、可能な手立てを実践していく。・新学習指導要領の理念にある、ESDの視点に立った教科指導や、主体的・対話的で深い学びに関する研修を深化させていく。	【学校運営協議会でのご意見より】 ・問題を解決するために、日々ご尽力いただき、心より感謝しております。教師の皆様がゆとりをもって子供に向き合い、寄り添える時間がとても重要なのだと感じました。コロナ禍で社会が大きく変化する中、柔軟に対応していく大人の姿を見て、成長していく子供たちの活躍が楽しみです。 ・豊田中学校において、生徒たちの地域における貢献活動への参加は、校長先生をはじめとして、そして多くの先生方やディレクターの指導の下、中学生ボランティアとして多くの事業に参画していただきました。 ・中学生の活発な活動や地域に貢献しようとする姿勢は、各地区のまちづくり協議会が目指す「まちづくり」の趣旨や目的にマッチております。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、すべての事業が中止となりました。早期終息を祈り、一日も早くボランティア活動の再開を待ち望んでおります。 ・来年度の教育計画については、お任せいたします。ながふじ学府一体校が、令和3年4月に開校となります。地域住民の一人として、どのように発展していくか期待にあふれております。 ・豊田東小学校も、1年でも早く一緒に学べることを願っています。 ・いよいよ新校舎での一体校教育がスタートしますね。先生方には計画の調整等大変だったと思います。新年度に向けてもよろしく願っています。 ・今年度、私自身、貴重な体験をさせていただき、感謝しております。一体校が完成し、今後が楽しみです。コロナの一日も早い終息を願っております。
		進んで先生に聞いたり自分で調べたりすると答える生徒 70%	A	74%		
志づくり	◎未来や社会につながる志づくり ○地域に根ざしたひと、もの、こととのかかわりの推進（地域学習、未来学習、職業講話、職場体験、防災学習等） ◎目標に向かって挑戦する自分づくり ○進路指導 ○道徳指導 ○健やかな心と体づくり	総合的な学習の時間を通して、今の自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしていると答える生徒 80%	A	88%	○例年、総合的な学習の時間を中心に、1年生の「地域学習」や「ようこそ先輩」2年生の「職場体験」3年生の「地域貢献活動」などに取り組んできた。本年度は、コロナ禍の影響を受け、例年通りの活動に大きな制限が生じたが、1年生は「志インタビュー」として、地域の方に話を聞く活動を行い2年次の職業人インタビュー、職業体験に繋がる活動とした。2年生は職業人インタビューを2学期にずらして行うことで対応した。3年生は地域貢献活動も例年通りできない状態であったため「福祉施設に今できること」として福祉施設にできる取り組みを生徒自身が考えて行った。また、現在の校舎建て替えに際して、学校が地域の人にとって思いの詰まった場所であることを確認し「さよなら校舎」と題して校舎の思い出を動画に残す活動を行った。「総合的な学習の時間を通して、自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしている」と答える生徒は全校で88%と昨年度より上昇しており、生徒の将来への展望を考える機会を確保することができたと考えられる。一方、「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」という生徒は減少した。今年度外部との交流ができないことが大きく影響していると考えられる。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。・地域との交流を今後も続く可能性があるコロナ対策の中でどのように実施できるか。・今年度、コロナ対応として行った活動のうち、今後も生かせる、参考にできる活動はないかを精査する。・志の授業を通して身に付けるべき力を一体校化の状況を踏まえ、小学校と協働できる部分を模索していく。	
		今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある生徒 70%	C	42%		
		進んで挨拶をすると答える生徒 95%	C	70%		
		難しいと思うことも失敗を恐れずに挑戦していると答える生徒 75%	B	74%		
仲間づくり	◎心の居場所づくり 生徒が安心して、自己存在感や充実感を感じられる場所の提供 ・学年・学級づくり、生徒会活動 ・人間関係づくりプログラム、Q-U ◎絆づくり 生徒が主体的に取り組む活動を通し、自らが絆を感じ取り紡いでいく場と機会の設定 ・体育大会、合唱コンクール ・授業での学び合い、協働学習	学級は楽しいと答える生徒 95%	B	88%	○本校では、生徒にとって魅力ある学校づくりを目指し、「心の居場所づくり」と「絆づくり」の2本柱を中心とした生徒指導を行ってきた。具体的には、どの生徒も安心して生活でき、自己存在感や充実感を感じられる居場所をつくること、日々の授業や行事において、全ての生徒が活躍できる場を実現することを通して、生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくことを目指した教育実践を行うこととし、その基盤となる学級経営に指導の重点をおくこととした。今年度は、コロナ禍による影響もあり例年とは違う学校生活となつてまい、結果として「学級は楽しいと答える生徒」は、昨年の91%から88%へ下がってしまったが、「みんなで何かをするのは楽しいと答える生徒」は93%、「自分の学級は互いにルールを守り、協力する雰囲気があると答える生徒」は90%で昨年と変わらず、制限された学校生活の中でも楽しみを見出しながら生活を送ることができたのではないかと。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。・学年、学級経営をさらに充実させ魅力ある学校づくりを推進する。・生徒の心に寄り添う指導をさらに実践し生徒個々が抱える様々な問題や心の陰りに素早く気づき、丁寧に対応する。・社会規範に対して公正に判断できる力を育てていく。	
		みんなで何かをするのは楽しいと答える生徒90%	A	93%		
		自分の学級は互いにルールを守り、協力する雰囲気があると答える生徒 85%	A	90%		
		出席率 95%	A	96%		

学校関係者評価を受けてのまとめ

協議会の委員の皆様には、例年であれば学校運営協議会の話し合いだけでなく、授業や立止式等の行事の参観もしていただいているが、今年度、コロナ感染症の影響で紙面を通しての実施となった。そのような状況にあっても、多くの貴重なご意見をいただくことができ、またできる範囲内で、総合的な学習の時間や、進路学習会の講師などに積極的に関わっていただいた。その中で、生徒が自分の志を高め、まじめに明るく学校生活を送っていることや、コロナ禍で社会が大きく変化する中において、柔軟に対応していく教職員の姿を評価していただいた。全ての教職員が学校教育目標の実現に向け、「志」をキーワードに教育計画をたて、カリキュラムマネージメントに取り組んできた成果であると誇っている。

生徒・保護者に実施したアンケートでは、「自分は、学校内外のボランティア活動に積極的に参加している。」や、「自分は規則正しい生活を送り、自分の健康管理や体づくりについて、意識して生活している。」についての肯定的な回答が、昨年度比大幅減となった。これには、コロナ禍が影響したものと受け止めている。一方で「お子さんは学校生活を楽しんでいると思いますか。」や、「学校の先生はお子さんのことを理解して指導に当たっていると思いますか。」についての肯定的な回答が、ここ3年間で徐々に高くなってきており、本校で取り組んでいる志カリキュラムの成果が浸透していることがうかがえる。

令和3年度は、学校教育目標として「志をもち、たくましく生き抜く生徒の育成」を継続する。また、ながふじ学府一体校が開校する節目の年でもある。小学校の教員と校舎を共有し、それぞれの教育課程の連携を図りながら、充実した教育活動を展開していく必要があり、当初の混乱も予想される。年度当初の躓きを少なくするための準備を、できる限り行っていきたい。また、学府の運営組織を学府内の小中と共有したり、「授業づくり」と「仲間づくり」の2つの課をおき、小中の横の連携を図ることは継続していく。そして、ESDの視点に立った教科指導、主体的・対話的で深い学びについての研修を深め、地域との連携をさらに充実し、CSの機能を充実させながら、志カリキュラムに一層の磨きをかけていきたい。